
「子宮に沈める」映画上映会 & 鼎談



5月25日（日） 受付13：45～

14：00～15：35 「子宮に沈める」上映

15：45～16：30 鼎談

会 場：滋賀弁護士会館4F大会議室

大津市梅林1－3－3 大津駅より徒歩2分

定員70名

**参加費無料
申込不要**

2010年夏、3歳女兒と1歳9ヶ月男児が亡くなった大阪の置き死事件を基にした映画「子宮に沈める」上映後、「孤立」をテーマに地域で何ができるのか、鼎談をしていただき、10年以上たって変わったこと変わらないことなどについて考える場にしたいと思います

鼎談は、滋賀県内で地域の方々とともに第三の居場所を運営されている川崎さん、妊婦の居場所を運営されている谷川さん、行政と連携して支援をするために第三の居場所ができた高島市の水浦さんをお迎えします。



川崎敦子さん(NPO法人芹川の河童)

谷川瑞穂(社会福祉法人小鳩会小鳩乳児院こぼと子ども家庭サポートセンター)

水浦久美さん(高島市子ども未来部こども家庭センター)

主催：特定非営利活動法人子どもの虐待防止ネットワーク・しが(キャプネス)

問合せ mail:capnes@nifty.com

後援：滋賀県・滋賀県教育委員会(申請中)

「小さな命を闇に閉じ込めたのは、誰なのか？」

衝撃的で静かな映像美で、社会の隙間にある暗部を描く



監督・脚本 緒方 貴臣

この映画の基となった大阪の事件から13年、映画の公開から10年が経ちました。
その間、国の施策として様々な虐待防止対策、子育て支援が行われ、この4月には子ども家庭庁も発足しました。
子どもや育児を取り巻く環境はまだ十分とは言えませんが、児童虐待が家族間だけの問題ではなく、
社会の問題という認識はかなり広がってきたように感じています。
しかし今なお一週間に1人のペースで、虐待によって子どもが命を落としています。
コロナ禍では虐待が増えたとも言われています。それは危機下では社会的立場の弱い者へ被害がいくためです。
毎年11月は、児童虐待防止推進月間(11/1~30)になっております。
今一度、子どもや子育てについて一緒に考えてみませんか？
私たちのすぐ近くに映画の「親子」がいるかもしれない。またその「親子」に自分たちがなる(なった)かもしれない。
この映画には、解決策は描かれてません。そもそもこれらの問題に模範解答のような解決策はありませんが、
どうしたら「親子」が助けられたのか、映画を通じて、考えて頂けたら嬉しいです。



止まない、育児放棄。

苦小牧、三郷、大津、そして大阪。
家庭という密室で、繰り返され止まない
「育児放棄」という名の殺人事件。
その度に母親だけが糾弾される、
変わらない社会の論調。
「育児放棄」は、別世界の出来事なのか？
あなたの周りにある、母子への無関心と非協力。
当たり前に「母性」という言葉に縛られ、
独り抱え込む母親たち。
シングルマザーたちの見えない経済環境。
今、声にならない母親たちの叫びに、その孤独に、
あなたは何を感じ、想うのか。

孤独が、母を追いつめる。

帰らない夫に一方的な別れを告げられ、
子供2人とアパートでの新生活がはじまる。
必死に「良き母」であらうとする主人公、由希子。
毎日の長時間労働、資格試験、家事、子育て。
やがて直面する学歴、職歴のないシングルマザーの
経済的困窮、社会からの孤立、すぐ隣に見える誘惑。
都会で暮らす若いシングルマザーが、
孤独に追いつめられ、
逃避に陥ることではじまる、
子供たちの悲劇。
いかにして若い母親が、殺人者となったのか？
小さな命を闇に閉じ込めたのは、誰なのか？



出演：伊澤恵美子、土屋希乃、土屋瑠輝、辰巳蒼生、仁科百華、田中稔彦／撮影：堀之内崇／照明：月岡知和／録音：根本飛鳥／美術：渡辺麗子／編集：澤井祐美／音楽：田中マコト／宣伝：有限会社キリンジ／配給：エネサイ(エネサイ)／日本映画／2013年／HD／カラー／95分／ステレオ



「子宝に沈める」はオレンジリボン運動の推薦映画です。
オレンジリボン運動は、「子ども虐待のない社会の実現」を目指す市民運動です。
本作品の上映収入の一部が、オレンジリボン運動の活動資金として寄付されます。